

図表 2.7 離婚に対する意識の各尺度得点に対する男女差の結果

尺度名		N	平均	標準偏差	t検定
離婚する親への否定的イメージ	男子	233	29.45	(6.83)	***
	女子	404	26.09	(6.31)	
離婚家庭の子どもへの否定的イメージ	男子	238	11.24	(3.39)	***
	女子	408	10.22	(3.21)	
離婚に対する否定的評価	男子	232	12.91	(4.07)	***
	女子	407	11.65	(3.22)	
離婚による人間的成長	男子	236	10.84	(2.26)	***
	女子	410	11.66	(2.10)	
女性の経済的自立による離婚増加	男子	237	4.85	(1.96)	***
	女子	409	5.56	(1.64)	

注: ***p<.001

第3節 結婚に対する意識

1. 結婚に対する意識の実態

(1) 結婚に対する考え(Q1)

① 結婚に対する考えの全体的傾向

9割前後の学生が、「今の世の中、結婚しなくても生きていける」と感じ、「女性にとっての幸せは、結婚することである」や「男性は結婚しないと、一人前とはいえない」という意見には反対していた。そして、7割前後の学生が、「結婚するのは、当たり前」とは思っておらず、「問題のある結婚生活なら、早く解消した方がいい」と感じていた。また、8割弱の学生が、「お金がなければ結婚生活は、うまくいかない」、「結婚する前に、相手の経済力を考える必要がある」と回答し、「愛さえあれば、結婚できる」という考えに反対している。さらに、結婚したら「多少の我慢が必要」、「配偶者と別に自分だけの人生の目標を持つべき」という意見に9割前後の学生が賛成していた。

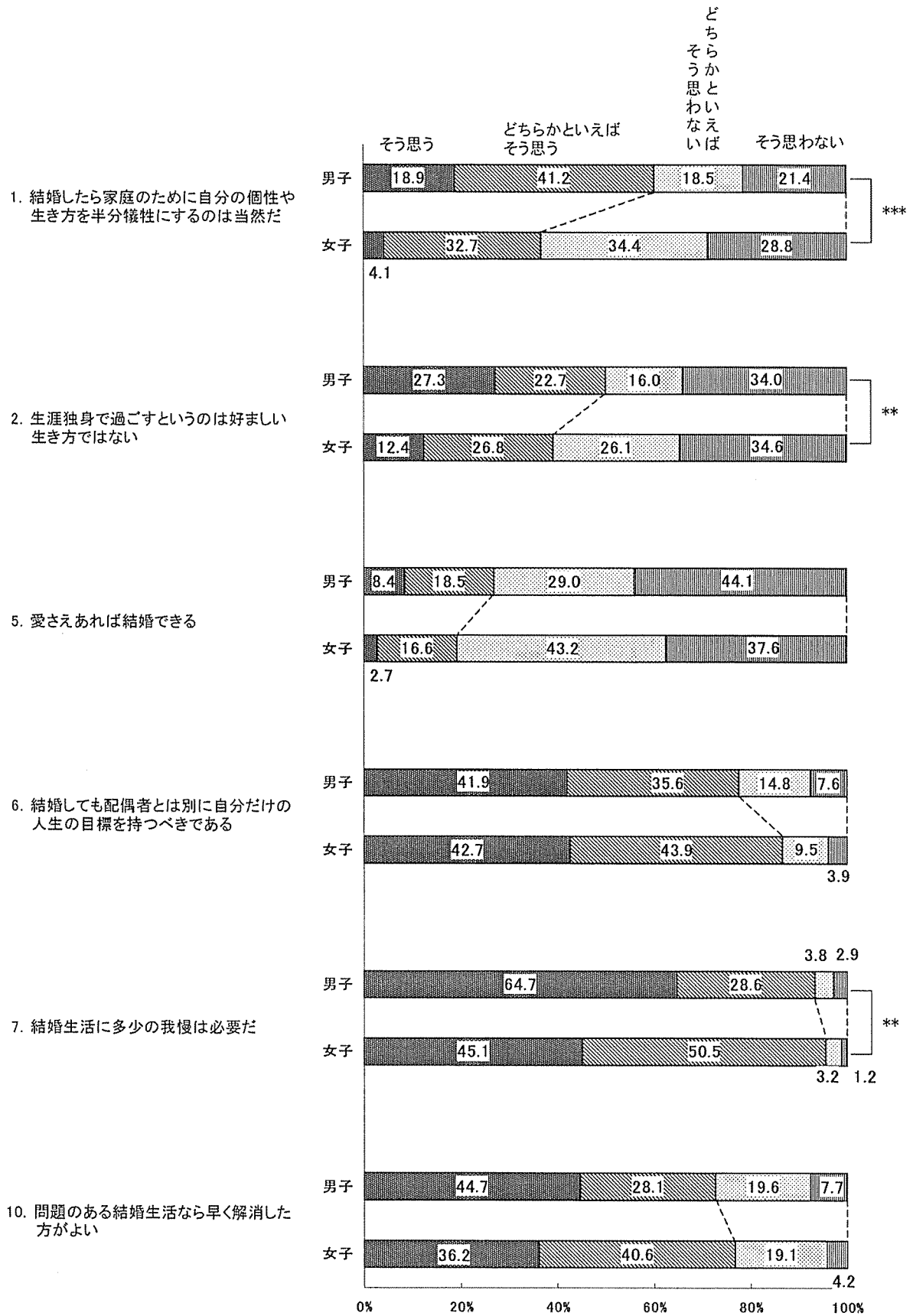
以上のように、大学生は、結婚を人生の選択肢のひとつとして捉えており、結婚を絶対視していない。そして、結婚しないという生き方も認めている。また、結婚生活は愛情だけではうまくいかず、お金が必要と考え、多少の我慢は必要であるが、夫と妻がそれぞれ人生の目標を持つことも大切であると感じていた。

② 結婚に対する考えにおける性差

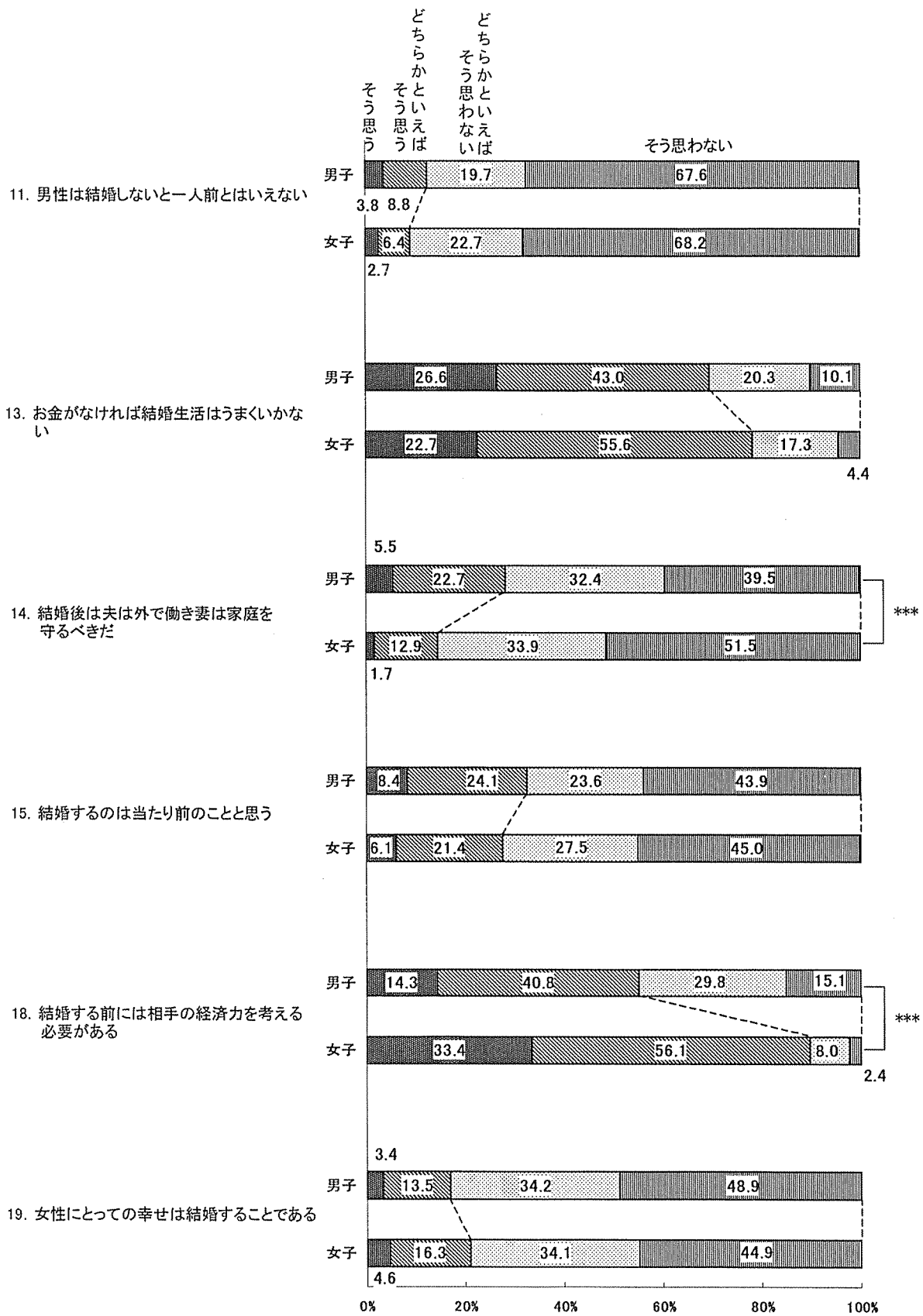
男女別に見た結婚に対する考えの回答結果を図表 2.8 に示す。

図表 2.8 にみられるように、男子は女子に比べると、「生涯独身で過ごすのは好ましくない」、「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」、「一度結婚したら、最後まで配偶者に添い遂げるべき」と強く感じていた。一方、女子は男子に比べると、「結婚生活に、多少の我慢は必要」、「結婚する前に、相手の経済力を考えることが必要」と強く考えていた。このように男子は女子よりも、結婚に対して保守的な意識が強く、他方、女子は男子よりも、結婚にはお金と忍耐が必要と認識していた。

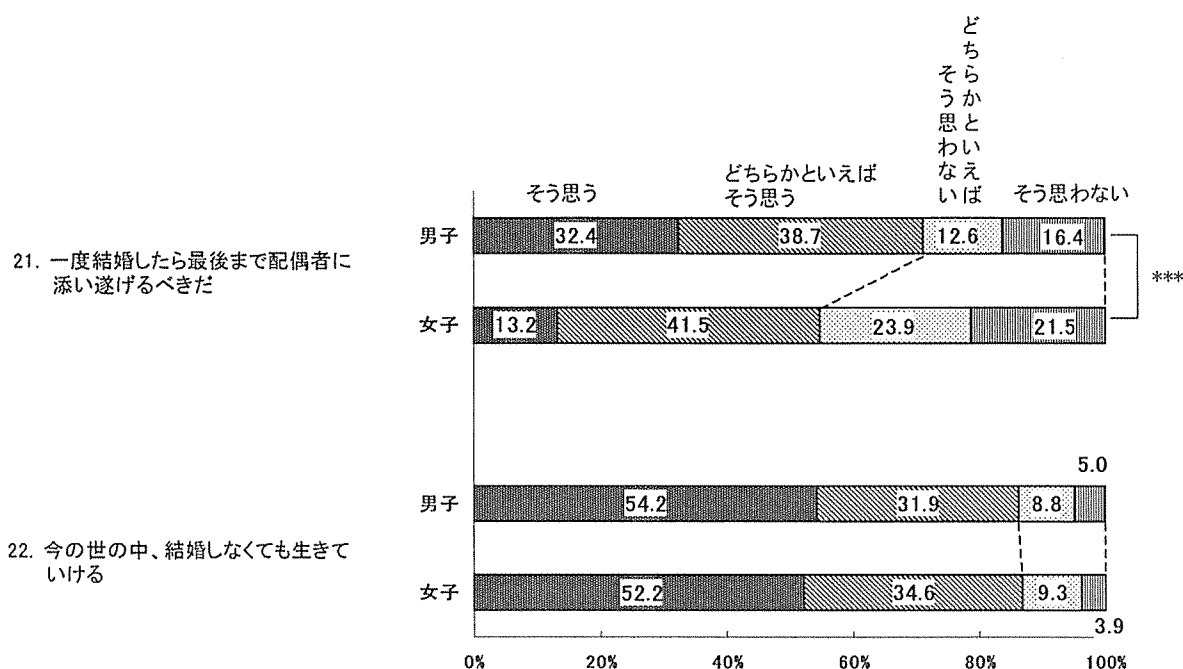
図表 2.8a 男女別に見た結婚に対する考え(Q1)



図表 2.8b 男女別に見た結婚に対する考え(Q1)(続き)



図表 2.8c 男女別に見た結婚に対する考え(Q1)(続き)



(2) 結婚で得るもの・失うものに対する考え(Q1)

① 結婚で得るもの・失うものに対する考えの全体的傾向

約8割の学生が、結婚によって「安らぎが得られる」と回答していたが、9割以上が、結婚すると「家事や育児をしなければならない」と感じ、8割前後の学生が「自由にお金を使えない」、「配偶者に対して経済的責任を負う」と考えていた。

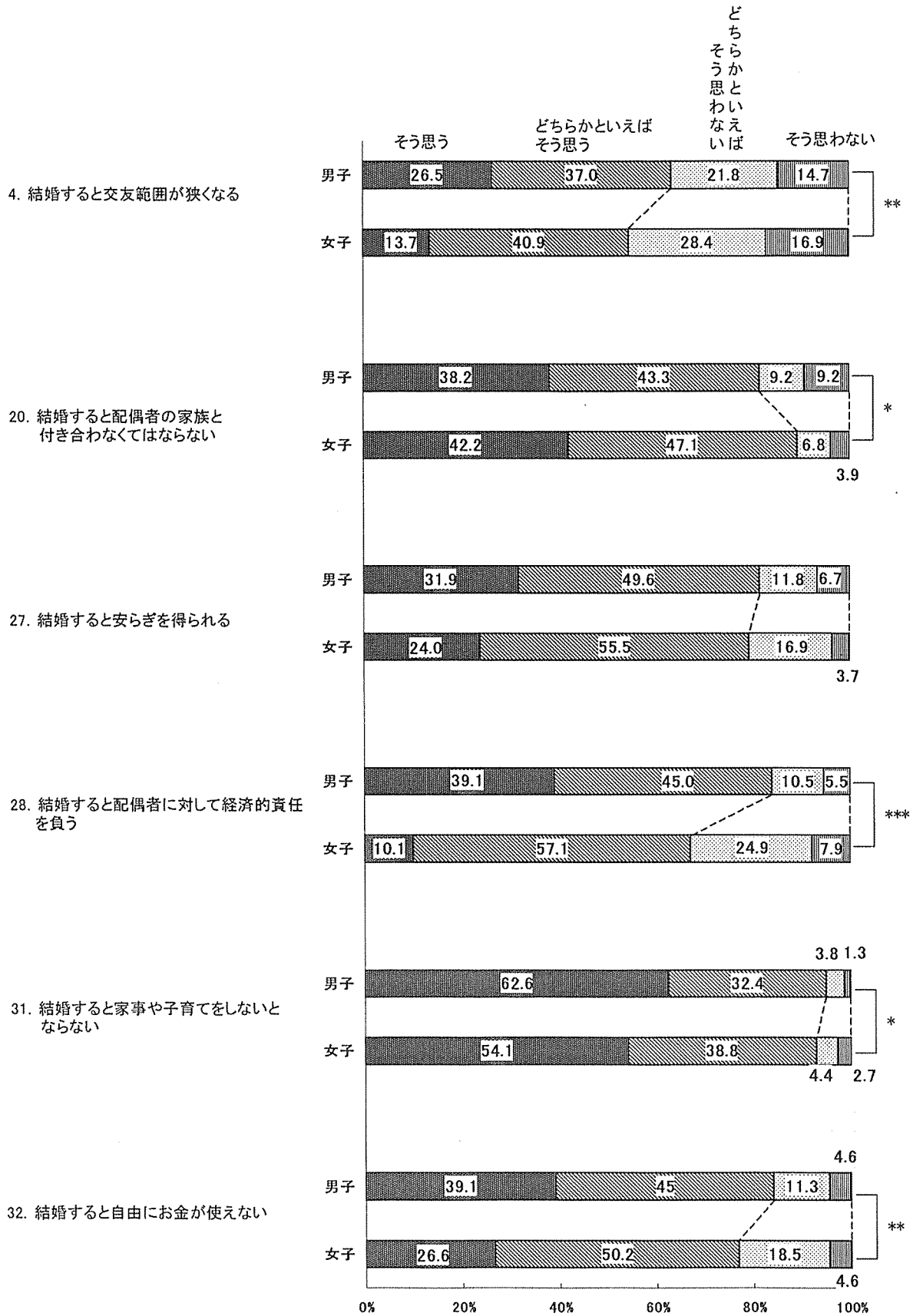
以上のように、大学生は、結婚によって得るものと失うものの両側面を認識しているものの、結婚生活に伴う負担感や拘束感のマイナス面を強く感じていた。

② 結婚で得るもの・失うものに対する考えにおける性差

男女別に見た結婚で得るもの・失うものに対する考えの回答結果を図表 2.9 に示す。

図表 2.9 にみられるように、男子は女子に比べると、結婚すると「家事や育児をしなければならない」、「自由にお金を使えない」、「家庭のために自分の生き方を半分犠牲にするのは当然」、「交際範囲が狭くなる」と強く感じていた。一方、女子が男子よりも肯定の回答が多かったのは、「結婚すると、配偶者の家族と付き合いなくてはならない」のみであった。つまり、男子の方が女子よりも、結婚に対して負担感や閉塞感が強かった。

図表 2.9a 男女別に見た結婚で得るもの・失うもの(Q1)



図表 2.9b 男女別に見た結婚で得るもの・失うもの(Q1)(続き)

